

令和3年度第2回奈良県自然環境保全審議会 鳥獣部会 議事録

- 1 日時：令和4年1月28日（金）13:00～15:00
- 2 場所：奈良県文化会館 多目的室
- 3 出席委員：
横山部会長、大井委員、佐藤委員、中川委員、揉井委員、八代田委員、吉岡委員
- 4 審議会の開会
 - ・会議の成立について
委員8名中、7名の出席があり、奈良県自然環境保全審議会運営要綱第4条第4項の規定により会議は有効に成立する旨事務局から報告
 - ・会議録署名人の指名
横山部会長から、会議録署名人に中川委員、揉井委員を指名
 - ・職務代理者の指名
横山部会長から、部会長の職務代理者に吉岡委員を指名
 - ・審議会の公開について
「奈良県自然環境保全審議会の会議の公開等の取り扱い」で原則公開と規定されており、本日の部会も公開と決定

5 議事の概要

<第1号議案>

奈良県第13次鳥獣保護管理事業計画の策定について

■説明

（事務局）計画の概要及び変更点について説明

■意見等

（大井委員）

オオタカの説明について、「原則鳥獣の管理のための捕獲を認めないこととするなど」と記載されているがわかりにくいので、「違法捕獲又はそれを助長する行為を厳しく取り締まるなど継続的な保護及び管理に努める」というような表現にした方がいいと思います。

また、豚熱の感染対策について「防疫措置への配慮を指導する」と記載されているが、「防疫措置の徹底を指導する」という表現の方がいいと思います。

（事務局）

ご意見の通り修正いたします。

（八代田委員）

アフリカ豚熱について侵入防止とあわせて、もし万が一侵入した場合の対策、体制整備について記載した方がいいと思います。

(横山部会長)

アフリカ豚熱のまん延防止に関わる表記があった方がいいのではないかとのご意見ですが事務局いかがですか。

(事務局)

ご意見を踏まえて、まん延防止対策等について調べて修正いたします。

→意見を踏まえて修正する。

修正部分の文章表現は部会長へ一任の上、承認。

<第2号議案>

奈良県ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第7次）の策定について

■説明

(事務局) 計画の概要及び変更点について説明

■意見等

(大井委員)

林業被害について、平成21年から平成26年度まで天然林の被害がありますが、その後天然林の被害がありません。これは天然林の被害がないということか、調査をしていないということか、お伺いしたい。

(事務局)

市町村の報告に基づき作成しておりますので、確認いたします。

(大井委員)

調べてないと思いますので、注釈を入れるか、人工林だけのデータにした方がいいと思います。

また、密度管理目標の記述がわかりにくいので、表現を変更した方がいいと思います。

(事務局)

ご意見を踏まえて、わかりやすく修正いたします。

(八代田委員)

入れるのは難しいと思うのですが、今後主伐再生林が増えると、林業被害が増えることが予想されるので、林業被害がもし増加してきたら反映できるような文言を入れていただければと考えています。

また、目標捕獲数が5年間同じですが、5年間で捕獲の進捗について地域差が出てくると思います。例えば2年目の段階で、一度見直して捕獲目標を検討することが可能でしたら、お願いしたいと思います。

(事務局)

林業被害に関して密度管理目標の中に入れるかどうかについて検討いたします。

また、捕獲目標は、毎年16,000頭で地域の割り振りも5年間変わりませんので、2年ごとに見直すといった表記をするかについて、検討いたします。

(横山部会長)

毎年生息数を推計するまででなくても、毎年、被害が減っているのか、目撃効率が減っているのかを確認いただきたいと思います。また、実際に 16,000 頭捕れるのか、16,000 頭捕ったらどうなるかを、最初の 1、2 年で確認いただいて、場合によっては計画の修正をお願いしたいと思います。

通常は目撃効率が下がると、「深刻」、「大きい」が大きく減るのが普通なのですが、かなり低密度でも被害が大きいと答えている割合が多い。被害程度、あるいは被害感情かもしれませんが、低密度の割に高い状況かと思しますので、防護柵による被害防除に力を入れていただくほうが被害程度は見やすいのかなと思います。

(横山部会長)

糞塊密度調査で令和元年度が全体的に下がっているのですが、要因がわかっていますか。

(田中氏 ((株) 野生鳥獣保護管理事務所))

気象条件の影響もなく、例年と大きな違いはなかったと伺っています。

(横山部会長)

生息数の推定のデータは、捕獲数、糞塊密度調査、出猟カレンダーの目撃効率と捕獲効率がありますが、捕獲効率は、どのデータを使われているのですか。

(田中氏 ((株) 野生鳥獣保護管理事務所))

捕獲効率のデータは、銃、くくり罠、はこ罠、囲い罠となっております。

(横山部会長)

モニタリング調査は毎年実施でよろしいでしょうか。また、個体数推定の集計、ベイズ法による推定は 5 年に 1 度ということでしょうか。

(事務局)

糞塊密度調査、出猟カレンダーの収集および農業被害アンケート調査は、毎年実施しております。個体数の推定は 5 年に 1 度です。

(横山部会長)

豚熱の防疫徹底について、「周知徹底に努める」と記載がありますが、もう少し強い表現の方がいいと思います。

→意見を踏まえて検討し、修正する。

修正部分の文章表現は部会長へ一任の上、承認。

<第 3 号議案>

奈良県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画（第 5 次）の策定について

■説明

(事務局) 計画の概要及び変更点について説明

■意見等

(大井委員)

シカと同様に目撃効率を指標に密度管理を行うとなっています。数値目標を設けるのは良いことだと思いますが、数値目標は実際のなものでないといけません。現状の目撃効率 0.066 を半減し 0.03 にすることが目標で、目撃効率と生息密度の係数との関係から定めたと考えられますが、目撃効率と生息密度の計数は誤差のある数字です。0.066 を 0.03 にすると誤差範囲から考えると目標の達成を判断できないと思います。

現在の生息数が推定されて、生息数と増加率が推定できると思いますので、何頭くらい捕獲すれば減少するかを試算し現実的なところで捕獲数を決めて、目標値とすると思います。

(事務局)

ご意見を参考に、また部会長と相談させていただいて検討したいと思います。

(横山部会長)

最近の研究成果では、くくり罠捕獲効率 (CPUE) が密度の指標となるという結果がありますので、可能であればくくり罠 CPUE を使われた方がいいと思います。目撃効率は、イノシシでは捕獲が進むと潜んで見えなくなることが加速するため、シカのように密度を反映しないと言われております。大井委員ご指摘のとおり被害程度と目撃効率の関係があまりはっきり出ていないという点から目標を設定するのは厳しいと思います。豚熱の影響が相当今後反映されると想定されますので、できれば早い段階で豚熱の影響を測った上で目標を再考する必要があると思います。

今の段階で可能であればくくり罠 CPUE を指標とすることを検討いただけたらと思います。

(事務局)

検討いたします。

(横山委員)

感染症対策について、シカと同じ表記になっているのですが、豚熱の感染状況や有病率を畜産課で把握されていると思いますが、掲載することは可能ですか。

(事務局)

畜産課と調整し、検討いたします。

(中川委員)

豚熱の関連で、イノシシはかなり減っている。6,000 とか 5,000 とかそんな問題ではなく、いくら捕れても 100 も捕れない。奈良県に、ほとんどイノシシはおりません。今まで 100 いたら 10 もいません。1 割もいません。捕獲数を目標設定するのであれば、生息数をきちんと調べていただきたい。目標捕獲数まで捕るのは難しいと思う。現場からの意見です。

(事務局)

猟友会の方や市町村職員からイノシシをほとんど見かけない、全然捕れないという声を聞いております。豚熱は相当まん延していると考えていますので、今年の猟期後の捕獲数や有害捕獲の状況によって、計画を再度検討していく必要があると思います。

(横山部会長)

計画に豚熱の影響が反映されていないことは記載されていますので、今年の猟期終了後、

状況を確認して必要に応じ計画の改訂を検討いただきたい。

ただ、岐阜県では3年前に豚熱が発生しましたが、最近是有病率がほとんど0になっています。病気のない状態になって、すぐにイノシシの生息数の回復傾向が見られると聞いており、思いのほか早く生息数が回復する可能性があります。イノシシが低密度になっているときにチャンスです。今後個体数の増加傾向となっても被害をおさえることができると思いますので、被害対策の徹底に取り組んでいただければと思います。

(事務局)

イノシシは子供を産む数が多く、個体数の回復が早いと思うので、生息数の少ないうちに被害対策を強化できたらと思います。

(八代田委員)

全域で捕獲目標を設定されていますが、森林面積が非常に大きい市町村もあるので、シカと同じように地区別に捕獲目標を定めることを検討いただければと思います。今すぐは難しいかもしれませんが、農業被害に対して目標を設定する考え方が、イノシシについてはいいかと思います。

(事務局)

今年度の生息推定についても地区別で検討しましたが、明確な差がなかったので全域といたしました。差が出てくるようであれば、地区別の管理目標の設定を検討いたします。

→意見を踏まえて検討し、修正する。

計画変更については、豚熱の影響を踏まえ場合によっては来年度以降検討する。

修正部分の文章表現は部会長へ一任の上、承認。

<第4号議案>

奈良県ツキノワグマ保護管理計画（第5次）の策定について

■説明

(事務局) 計画の概要及び変更点について説明

■意見等

(大井委員)

「個体群の質的・量的な発展」と表現されていますが、あまり個体群の発展という言葉は使わない。「良好な生息地の保全と個体数の回復」などの分かりやすい言葉としても問題ないと思います。

基本目標には、今記載されている対応策の確立や被害対策については目標を達成するための方法なので、例えば数値目標や人身被害・林業被害をどうするのかといったことを記載するのが適当だと思います。

林業被害の実損被害面積と被害区域面積が記載されていますが、実損の被害面積のほうは実態に近いものだと思うので、実損被害面積の記載だけでいいと思います。

林業被害については、上北山村が長年に渡って高止まりの状態が続いているので、上北山

村での対策をなんとかしないといけないと思います。ツキノワグマと共存するのは、被害が高止まりではできないと思います。農林業被害の防止について林業被害の防止のための防除事業などについて記載が欲しいところです。

また、出没時の対応について情報収集があって、すぐに捕獲となっていますが、その前にクマを引き寄せている要因を取り除くなどの対応が捕獲の前に必要かと思います。誘導状況など、あるいは侵入経路等侵入防止対策をとる等、そういった対応について書いておくことが必要かと思います。

(事務局)

基本目標に関して、他の計画を参考に再検討したいと思います。

林業被害について、実損被害面積だけにするなど書き直します。

上北山村は、被害が高止まりとなっていますので、対策について上北山村の方と考えたいと思います。また、林業被害について、防除事業を加えるような感じで考えたいと思います。

情報収集についての記載は、出てきた要因を取り除くような形で考えたいと思います。

(横山部会長)

個体数の急激な増加はないとしていますが、個体数の推定値が下がった状況にあります。減っているという判断をしていないということですね。

(事務局)

推定生息数は少なくなってきていますが、十津川村でのカメラトラップの撮影回数は平成30年度以降概ね一定で推移していることから、生息密度が減少傾向にあるとは断言できないということで、減少という表現を避けております。

(横山部会長)

上北山村での調査が行われていない時で、十津川村のデータだけを見ると、減少傾向はみられないという、そういう認識でよろしいですか。

(事務局)

はい。

(横山委員)

実際の数値と記載に齟齬があると分かりにくいので、十津川村のデータについて触れるなど表記を変えた方がいいと思います。

(事務局)

わかりやすい表記に変更いたします。

→意見を踏まえて修正する。

修正部分の文章表現は部会長へ一任の上、承認。

<第5号議案>

奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第2次）の策定について

■説明

(事務局) 計画の概要及び変更点について説明

■意見等

(佐藤委員)

遑ってしまいますが、奈良県ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画において部会長が言われたとおり、人獣共通感染症について捕獲者に対して「周知に努める」より「徹底する」ということへの変更賛同いたします。さらに、ダニ対策やウイルス性感染症への周知を徹底すると入れた方がいいのではないかと思います。

このことは、奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画においても、可能であれば注意喚起は必要かなと考えております。観光の観点からもテーマが共生だと思うので、感染症というもの、ウイルスというものを、我々が何を学ぶかということだとも思いますので、検討をお願いしたいと思います。

(事務局)

天然記念物の保護ということもあり、別の検討委員会もございますので、そちらとも協議し、検討いたします。

(揉井委員)

シカ、イノシシ、ツキノワグマについて生息環境管理について記載が各計画にありましたが、風力発電や太陽光発電の大規模な環境変化について記載がないことが気になります。

(事務局)

奈良県においても風力発電や太陽光発電が話題になっております。風力発電や太陽光発電が生息環境管理に多大な影響を与えるという事案がございましたら、随時改正を検討したいと思います。

→意見を踏まえて検討し修正する。

修正部分の文章表現は部会長へ一任の上、承認。